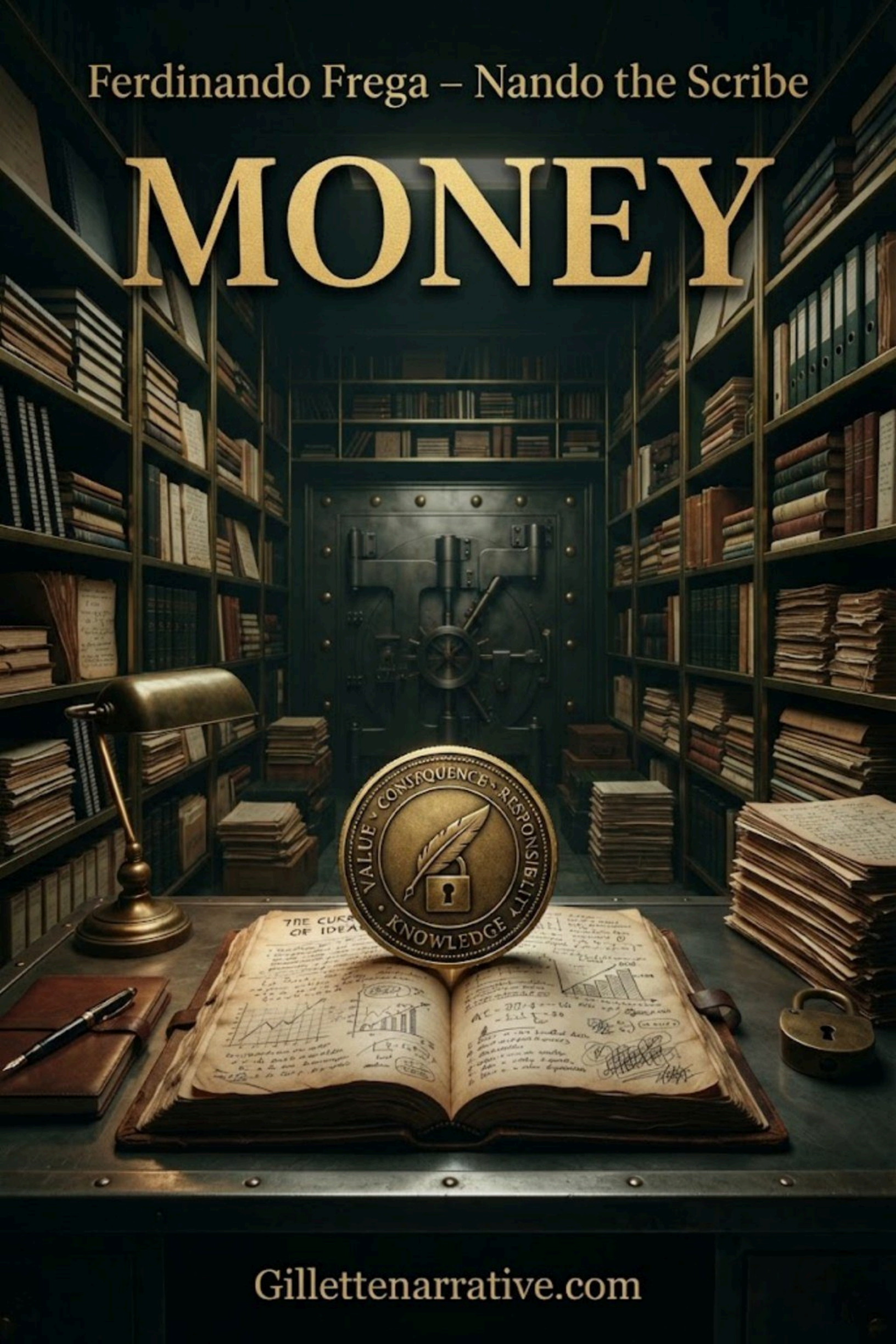


Ferdinando Frega – Nando the Scribe

MONEY



Gillettenarrative.com

Gilletteのお金

Gillette Audio — 書記ナンド — gillettenarrative.com

アメリカの大手多国籍企業で働き、その仕組みの内側にいると、いちばん下の役職からいちばん上まで、ものの考え方は会社の資源をどう管理するかから始まる。そして—技術的にも、精神的にも—「節約」という言葉を使いこなせなければならない。人を会社人間に変える、あの言葉だ。

考え方は単純だ。自分の金を管理するのなら、申し開きをする相手はせいぜい妻か、母親か、愛人か、祖母—いつだって女だ。

だが会社の金を管理するとなると、慎重に、敬意をもって扱うだけでは足りない—けっして無駄にしてはならない。その金は、あとで自分がやらかすクソみたいなへまの穴埋めに、必ず要るからだ。

同僚との関係でさえ、自分が背負うコストだ。投じたものがたった一人に届くだけなのか、それとも机から机へ、頭から頭へと渡っていくのか、本当のところはけっしてわからない—そしてその途中で、天才だ、怪物だと言われていた人間が、そっと外されるべき人間に変わる。

それに、誰もがいつも忘れてることがある。多国籍の組織では—宗教的なものから商業的なもの、政治的なものまで、一つ残らず—情報の作法はいつも同じなのだ。

ボスは全員のすべてを知っている。

いちばんの下っ端は何ひとつ知りやしない。

一家のなかの寝取られ亭主に、少し似ている。

よその家の寝取られ話には花を咲かせるくせに、

真っ先に寝取られているのが自分だとは、夢にも思っていない。

フェルディナンド